

箱庭の国

The Reclamation

裏の守

〈プレビュー版ルール〉

1 人用ボードゲーム 30 分

魔法が人の手を離れないことを

庭師が主を失わないことを

誰が約束しただろう

裏庭は、すぐそこまで迫っている

「裏の守」は、「箱庭の国」のソロプレイ用ルールです。初期配置が与えられた盤面で、規則的に行動し、プレイヤーのほうへと迫ってくる相手の庭師を、手詰まりになる前に盤上から駆逐することを目指します。

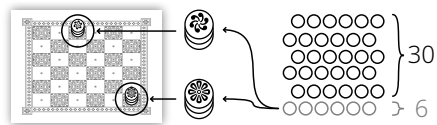
◆ ゲームの準備

このルールでは、「華」の陣営を自分の陣営、「蔓」の陣営を相手の陣営とします。

まず、石をすべて (36 個) 手元に置きます。手元の石はストックと呼び、自分の石か相手の石かを区別せず、両方の開拓に使用します。

ボードの一番右手前のマスに自分の庭師を、一番奥の左から三番目のマスに相手の庭師を、それぞれ作ります。

結果、場は下図のようになります。



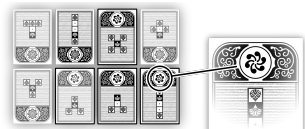
次に、「華」と「蔓」のカード全て (8 枚) を、黒の面を表にし、目をつぶってよく混ぜます。カードがある程度混ざったら、上から半分 (4 枚) を取り、裏表を反転して戻し、再びよく混ぜます。そののち、目を開けて、カードを横 4 枚、縦 2 枚の形に並べます。ここでもカードがよく混ざるように、下記のような順番でジグザグに置いていきます。

5 3 7 1

4 6 2 8

カードの横の並びを段、縦の並びを列と呼びます。「華」のカードを自分のカード、「蔓」のカードを相手のカードと呼びます。自分のカード全てが相手の方を、相手のカード全てが自分の方を向いた状態にします。ボードの手前が自分の方、ボードの奥が相手の方です。カードは、置かれた向きで使えます。(つまり、相手のカードは天地を反転して使います。)

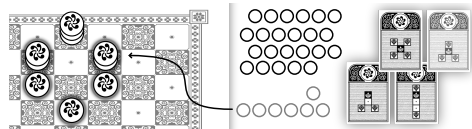
結果、下図のようにカードが並びます。



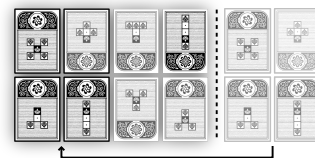
カードを並べたら、以下のように相手陣営の初期配置を行います。

- 場に並んだ相手のカード全てを一度ずつ使い、相手の庭師に開拓を行わせます (開拓の処理については、後述の「◆開拓の手順」を参照してください)
- 一つの庭師が複数回の開拓を行うため、結果として開拓の効果は累積します (開拓の範囲が重なったマスに、石が積みあがっていきます)
- 開拓の過程で新しい庭師ができたとしても、初期配置の過程で開拓を行うのは、最初からボードに置かれた庭師だけです

先述の例で示したカードの並びで初期配置を行うと、ボード上は下図のようになります。



〈調整〉 ゲームの準備の最後に、あなたはカードの任意の列を選ぶことができます。列を選んだら、それより右のカードを、並び順を変えずに左端のカードのさらに左に移動します。以後、ゲーム中カードの並び順が変わることはありません。



◆ 進行

ゲームは、手番を繰り返すことで進行します。手番には、「自分の手番」と「相手の手番」があります。(一人用ゲームである以上、自分の手番も、相手の手番も、すべてあなたが処理します。)

- 自分の手番では、自分の庭師を移動させ、開拓を行わせます。そののち、相手の庭師が一步前進します。
- 相手の手番では、相手の庭師が開拓を行います。相手の手番では、庭師は移動しません。

ゲームは、以下の条件で終わります。

- 相手の庭師の侵攻を許したり、ゲームの続行ができなくなった場合、あなたの敗北でゲームは終わります
- 相手の庭師をすべて取り除いたら、あなたの勝利でゲームは終わります

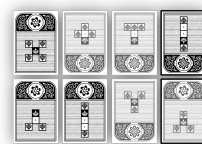
◆ 手番の概要

手番では、カードを 1 枚選んで使います。

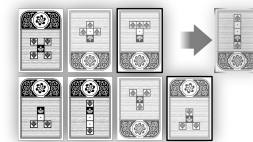
自分のカードを選べば自分の手番、相手のカードを選べば相手の手番になります。

選べるカードは、上段か下段の未使用のカードのうち、その段の中で一番右端にあるカードだけです。(多くの場合、使用するカードは、上段のカードか下段のカードかの二択から選ぶことになります。)

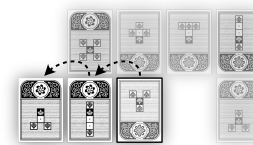
全てのカードが未使用である場合、上段か下段の右端のカードのどちらかを使います。



使用したカードは、わかりやすいように若干右にずらして、未使用カードとの間に隙間を作ります。以降は、上段か下段の「左側のブロック」の右端のカードを使います。



より未使用カードの枚数が多いほうの段を、優先して選ぶ必要はありません。ただし、どちらかの段のカードを全て使用すると、以降はもう片方の段のカードを右から順番に使用することになります。(選ぶカードの選択肢は一つだけになります。)



さらに、実際には、使用できるカードは有効な開拓を行えるカードに限られます。この点については、「◆開拓の手順」で詳述します。以上の説明からわかるように、このゲームでは、「自分の手番」と「相手の手番」は交互に行われるとは限りません。

◆ 自分の手番

自分のカードを選んだら、自分の手番を行います。

自分の庭師の移動

自分の手番では、まず自分の (=「華」陣営の) 庭師を、上下左右及び斜めに隣り合うマスに移動させます。

- 自分の庭師が複数ある場合、それらを任意の順番で、個別に、必ず全て、移動させます
- 移動先に庭師がある場合、庭師はそこへ移動できません
- 移動先に「蔓」陣営の石が置かれていた場合、庭師はそこへ移動できません
- 移動先に「華」陣営の石が置かれていた場合、それらを取り除いてストックに戻してから、庭師をそこへ移動させることができます

▲ 自分の庭師をどのような順番で、どのような方向に動かしても、どうしても動かすことができない庭師が一つでもある場合、あなたはゲームに負

